

■ (156) 「リケジョ」から連想、「ダンクラ」は絶滅寸前か

約30年前の高校3年時は「ダンクラ」にいた。そもそも入学時から男子が多勢で女子は少数。大学受験を控えて理系と文系に分かれると、理系はさらに男の割合が高まり、男子だけのクラスが登場した。夏は涼しい柔道着姿で授業を受ける奇妙で楽しい学級だった。

そんな理系に、世界を驚かせる女性が登場した。シンプルな方法で新型の万能細胞を作り出した小保方晴子さんだ。その快挙を各新聞は1面で伝えた。見出しは黒い背景に白抜き横書き文字の「横カット」。世界的に権威ある科学誌が最初、「細胞生物学の歴史を愚弄(ぐろう)している」と成果を信じなかったという逸話がニュースをさらに大きくした。多くの科学者は今回同様、科学誌に論文を掲せることで成果を発表したが。今回の経緯は不明だが、事前察知した新聞などが「雑誌発行まで報道は待つ」と頼まれる例も多い。新聞も原則、研究者の意志を尊重する。雑誌発行の瞬間から、一斉に報道を始める。

昨年度に理系の大学や研究機関に進んだ女性は13万人近くで、20年前の2.2倍に増えているという。となると、理系の「ダンクラ」はもはや“絶滅危惧種”かも。(山)